

(8) 八西ブロック（八幡浜市、伊方町）

～産地づくり～

「美味しいみかんづくり」と「連年安定生産による生産量確保」を、生き残りをかけた産地の目標として掲げ、消費者はもとより「かんきつ」を取り巻く関係者に信頼されるブランド産地を維持できるよう、「うんしゅうみかん」の売上100億円、特産「清見」などの中晩柑類の売上50億円の目標を連年で達成していけるよう、組織連携を強化して「柑橘王国えひめ」を支える日本一のブランド産地の維持・発展を目指します。

～戦略品目や産地づくりの方向～

○生産基盤整備の推進

1 南予用水施設の整備

【取組】

- ①畑地かんがい施設の整備
- ②既存水利施設の老朽化対策の推進
- ③マルドリ施設の整備

【成果】

- ①畑地かんがい施設：1地区（高野地）
- ②基幹水利施設：
5地区（伊方、八幡浜西南、八幡浜北、保内、三崎）
- ②末端施設：
7地区（灘、日土、川永田、真穴(第1・第2)、瀬戸(第1・第2)）
- ③マルドリ施設：1地区（真穴第1）

2 生産拡大に向けた施設整備等

【取組】

- ①国・県・市町の補助事業の活用を促進
- ②鳥獣害防止対策施設（鉄筋柵、電気柵）の整備
- ③園内道の整備

【成果】

- ①園内作業道の整備：1,809m(果樹経)
- ①かん水施設(スプリッター、点滴かん水)：7,169㎡(果樹経)
- ①単軌道施設の整備：7,432m(果樹経)
- ①モーター動力車・台車の導入：動力車19台、台車19台(未来型)
- ②鉄筋柵の設置：
八幡浜：3,090枚-6,180m、伊方：1,896枚-3,792m
- ②電気柵の設置：八幡浜：14,500m、伊方：30,000m(町単)
- ③園内道の整備：1地区（真穴(R3完了)）



スプリッターかん水



マルドリ施設の整備



農道整備(真穴地区)



マルチ栽培



マルドリ栽培の普及

○日本一のブランドみかん産地の維持・発展

1 温州みかんの高品質・安定生産対策

【取組】

- ①マルチ被覆及びマルドリ栽培の導入・普及
- ②南柑20号の浮皮防止対策の普及

【成果】

- ①マルチ被覆面積：299ha
- ①マルドリ栽培：12.5ha
- ②浮皮対策実施面積：68.7ha（ジバシリ+ジバシリ酸散布）

2 中晩柑品種の導入と安定生産対策・販売促進

【取組】

- ・県外産品品種「紅まどんな」「甘平」の生産拡大と品質向上

【成果】

- ・紅まどんな雨よけハウス設置：6棟-2,582㎡
- ・優良品種への改植：66,596㎡

○日本一のブランドみかん産地の維持・発展

3 海外輸出

【取組】

- ・防除暦の見直しと指導を実施するなど、かんきつの海外輸出を支援

【成果】

- ・台湾向け輸出：温州みかん：1.4t（前年1.2t）
甘平：2.1t（前年2.3t）

4 GAP取得と普及

【取組】

- ・農業者・農業生産法人に対し、GAP取得のための内部審査や研修会を実施するなど、GAPの取得を啓発・支援

【成果】

- ・GAP取得を検討している組織：2組織
- ・GAP取得に向け取組中の組織：2組織
- ・GAP取得に向けた支援の内容：更新に向けた指導延べ9回
- ・未来につながる持続可能な農業推進コンクールのGAP部門・個人経営の部で中国四国農政局長賞を受賞

5 南予地域農業遺産推進協議会の活動支援

【取組】

- ・世界農業遺産登録に向けた活動を展開

【成果】

- ・世界農業遺産登録に必要な各種調査を実施
- ・道の駅「八幡浜みなと」にみかんオブジェを設置
- ・地元パン業者による柑橘を使った新商品発表会の実施



GAPに取り組む法人への支援



みかんオブジェの設置



気象ロボットによる
園地環境のモニタリング



AI選果機セミナー



八西CATVによる情報発信

○未来型かんきつ生産に向けたスマート営農体系の確立

1 推進体制の整備

【取組】

- ・西宇和スマート農業推進協議会の設立及び活動支援

【成果】

- ・西宇和スマート農業推進協議会の設立（4/30）
- ・検討会：2回

2 スマート農業技術体系の実証

【取組】

- ①気象ロボットによる栽培管理の最適化
- ②AI選果機による選果作業の省力化
- ③簡易アシストスーツによる疲労度軽減
- ④スマート農業技術導入による経営上の効果分析

【成果】

- ①土壌水分計で水分ストレスがあったとされる乾燥状態は、気象ロボットの水分センサーでは25～30%と判断
- ②AI選果機を利用することで、10a当たり労働時間は、県経営目標数値180時間に対して30.1%削減されると試算
- ③簡易アシストスーツ3機種について、疲労度軽減効果、価格、特徴等の比較表を作成
- ④実証農家8戸の経営データ、作業日誌、ほ場環境データからスマート営農体系での経営指標を作成

3 スマート農業技術の普及促進

【取組】

- ・技術普及に向けた情報発信

【成果】

- ・八西CATVによるスマート農業技術の紹介：3回
（7月気象ロボット、10月AI選果機・アシストスーツ）
- ・セミナーの開催：1回（参加者62人）
- ・アグリビジネス創出フェア（東京都）における西宇和地域スマート農業への取組紹介（11/25）
- ・農業高校生に対するスマート農業研修会の開催：1回（11/30）
- ・農業団体等の視察への対応：11回

○地域特有の戦略的品目による産地の牽引

1 地域特産「清見」のブランド力向上

【取組】

- ①高品質生産技術の検討
- ②貯蔵技術の改善
- ③販路拡大

【成果】

- ①加γM剤散布試験：果皮障害の発生率が約20%減少
- ①摘果剤試験：約10%落果促進効果
- ②コンテナを積み重ねたまま特大鮮度保持袋で貯蔵する方法の検討（省力化かつ貯蔵性向上に向け、改良予定）
- ③首都圏の量販店に対する販促活動：1回（12/24）

2 温暖化に対応した「川田温州」のブランド化

【取組】

- ①連年安定生産に有効な半樹別交互結実技術の確立と普及
- ②新たな栽培者の掘り起し
- ③生産推進協議会・プロジェクトチームによる活動

【成果】

- ①生産量：32t（前年30t）
- ①半樹別交互結実の普及状況：15件の農家が導入中
- ②栽培講習会の実施（4回）により確保した新規栽培者：1人
- ③実証圃の調査報告や販売量を確認

3 県オリジナル品種「甘平」のブランド化

【取組】

- ①防除暦の見直しを実施するなど、海外輸出を推進
- ②愛媛Queenスプラッシュ（QS）合格率の向上

【成果】

- ①台湾への輸出：2.1t（前年2.3t）
- ②QS合格率：1%（前年1.1%）

4 新たなフィンガーライム産地づくり

【取組】

- ①高品質・安定生産技術の確立
- ②えひめ食材販路拡大定期便事業による流通・販路の拡大
- ③産地化に向けた情報共有

【成果】

- ①栽培先進地域への情報収集活動：2回（宮崎県、今治市）
- ①土壌分析の実施：12園地
- ①果皮障害等の発生状況を把握
- ②新規販売契約：1件
- ③県・市・JAから構成される産地化検討会の開催：2回



清見の摘果剤試験



清見の貯蔵試験



川田温州現地検討会



かんきつの海外輸出検討会

～地域づくり～

地域農業者が主体となった就農支援チームを各地区に設立し、移住就農者を確保・育成するとともに、集落営農法人の設立支援や新規就農者、大規模認定農業者、法人経営体の育成を通して、全国有数のかんきつ産地を次世代に継承します。

また、集落機能を維持するために、地域資源の保全活動はもとより、担い手の負担軽減を図るための安定した労働力の確保に向け、働きやすい農村環境を整備します。

～推進対象や地域づくりの方向～

○新規就農者の確保・育成

1 新規就農者等の確保

【取組】

- ①研修制度や補助事業の説明会の開催
- ②就農フェアの参加(オンライン)及び就農相談等の実施

【成果】

- ① 制度及び支援事業説明会：2回
- ① JA研修者：7人
- ② 就農フェアの参加
5/30松山オンライン、6/27東京オンライン、8/21大阪オンライン、
11/27松山
- ② 就農相談者：18人
- ①②新規就農者数：28人(内、移住就農者12人)



オンライン就農相談

○新規就農者の確保・育成

2 新規就農者の定着率向上

【取組】

- ①CATVによるシトラス講座の配信
- ②栽培技術研修の開催
- ③次世代人材投資事業（開始型）受給者に対する支援

【成果】

- ①シトラス講座実施回数：6回
（中晩柑の摘果、鳥獣害対策、気象ロボット、せん定等）
- ①YouTube視聴回数：1,604回(3/14まで)
- ②栽培技術研修参加者：20人（摘果・せん定）
- ③H29年度就農者定着率：100%

3 地区就農支援チームの設立及び移住就農支援

【取組】

- ①就農支援チームの設立支援
- ②収穫体験研修などによる移住就農支援

【成果】

- ①新規支援チームの設立：1地区（町見）
- ②農業体験者数：3人

4 青年農業者活動の支援

【取組】

- ①プロジェクト活動支援
- ②出前授業の実施
- ③移住就農者の確保活動
- ④各種交流会・研修会の実施

【成果】

- ①プロジェクト活動実施組織：7組織
- ②映像教材・PRツール(すごろく、クリアール等)の作成
出前授業実施対象校：15校
（松山市内小学校 対象児童数1,451人）
- ③移住就農希望者向け八西地区のPR動画の作成（3月）
- ④交流会・研修会開催回数：2回
（みかん研究所視察、南予ブロッカーダ-研修会等）



就農支援チーム設立検討会



PRツール(すごろく)



みかんの出前授業



PR動画収録

○雇用労働力の確保によるブランド産地の維持・発展

1 収穫支援アルバイト・ボランティアの確保

【取組】

- ①雇用労働力の確保
- ②雇用促進協議会の活動支援

【成果】

- ①西宇和みかん支援隊スタッフ会：12回
- ①西宇和版新型コロナウイルス感染防止ガイドラインの改訂
- ①アルバイト-1人につき2回のPCR検査を実施（678人）
- ①管内の県外アルバイト-：508人(延べ20,320人)
- ①有償ボランティア参加者数：700人
- ②新規雇用促進協議会の設立：1地区（伊方町大久）

2 労働環境の改善

【取組】

- ①宿泊施設の整備と掘り起こし
- ②園地トイレ施設の整備

【成果】

- ①宿泊施設の整備：1件（町見地区保育所跡地の改修）
- ①宿泊施設掘り起こし：空き家2件
- ①管内宿泊施設：管内計16件
- ①「女性活躍推進対策事業」（国）を活用したシェアハウスの改修
（休憩所、洗濯室の整備：高野地地区）
- ②園地トイレ整備：3基（伊方町大浜、中浦、川永田）
- ②園地トイレ案内板の設置：1か所（八幡浜市川上地区）



女性が働きやすい
労働環境整備検討会



労働力確保説明会



保育園跡地を改修した宿泊施設

○経営モデルの育成による産地振興

1 大規模経営体の育成指導

【取組】

- ①説明会の開催や林・トセツカとの連携による法人化の推進・育成
- ②資金相談の実施
- ③経営継続補助金等（新型コロナ対策）の対応

【成果】

- ①新規法人化経営体数：1経営体
- ②相談対応（経営改善計画作成）：10件
- ③経営継続補助金対応農家数（書類作成援助）：31戸

2 6次産業化への取組支援

【取組】

- ①新規商品の開発・改良に対する支援の実施
- ②販路開拓に対する支援の実施
- ③南予マルシェの開催

【成果】

- ①包装素材の検討：1事業者、ギフト商品の開発：1事業者
- ①企業組合高野地フルーツ倶楽部が、神奈川県菓子店との取引が成立し、夏季メニューとしての提供が実現（国補事業1件、県事業2件採択）
- ②6次産業化チャレンジ事業でmagenta mikanが、かんきつジュースのギフト化とオンラインショップを開設
- ②第3回ダリイ世界マールド・アワード & フェスティバル日本大会出展数：1,421点、11/14表彰式（産業まつりと同時開催）
- ②首都圏百貨店バイヤーとの販売相談会参加者：4事業者
- ②柑橘や柑橘加工品の新規販路開拓：6件
- ③南予マルシェ開催回数：8回

3 集落営農推進による担い手への農地集積

【取組】

- ・かんきつ地帯の集落営農支援

【成果】

- ※西宇和地域柑橘集落営農組織支援事業活用（局予算）
- ・西宇和地域柑橘集落営農組織支援協議会の設立（5月）
- ・モデル園検討及び設置：5a（マルドリ施設設置）
- ・先進地視察：北条地域におけるかんきつ基盤整備手法（9/30）
- ・経営研修会の実施：4回（延べ40名参加）

4 一次産業女子の活動支援

【取組】

- ・一次産業女子組織「∞農Harvest」等の組織活動支援

【成果】

- ・一次産業女子組織「∞農Harvest」会員数：13人（前年9人）
- ・オンラインでの就農相談会において、首都圏からの産地体験ツアー参加者に対して、農業や地域のPRを実施

5 農地流動化・農地維持活動等の支援

【取組】

- ・多面的機能に関する各種事業等により、各組織の共同活動を支援

【成果】

- ・実施された共同活動：八幡浜市 12組織（986ha）
伊方町 14組織（453ha）



6次化商品検討会



第3回マールド大会レポセッション



南予マルシェ



園地整備の検討
(伊方町中浦)



一次産業女子の活動紹介